

□目次

1. 寄稿①「環境的に持続可能な交通を目指して」(第5回)

●「地域で支える公共交通」

【環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会委員 上岡直見】

2. 寄稿②「地方から全国に向けた情報発信！」(第5回)

●「三郷市及び八潮市の全域をステージとした持続可能な交通環境づくりを目指して」

【三郷市環境経済部交通対策課副参事 大野 練夫】

3. ニュース／トピック

●「国土交通省環境行動計画モデル事業」の実施地域が選定されました。【国土交通省】

●EST 普及推進フォーラムを開催します。【EST 普及推進委員会】

●乗用車等の新しい燃費基準に関する中間取りまとめを公表【国土交通省、経済産業省】

●2007年3月からSuicaとPASMOが相互利用サービス開始【JR東日本、PASMO協議会他】

●第2回アジアEST地域フォーラムをインドネシアで開催【環境省】

●自転車の安全利用の促進に関する提言をとりまとめ【警察庁】

●京都府の久世工業団地周辺地域で「共同送迎バス」を運行【久世工業団地周辺地域共同運行システム構築検討会議】

●京都府の久御山工業団地周辺地域で通勤者向けモビリティ・マネジメントを実施【京都府他】

4. イベント情報

●アラン・メネー連続講演会(富山)「公共交通活性化によるコンパクトなまちづくり」

●アラン・メネー連続講演会(福井)「まちづくりに路面電車をどう活かすか！」

●EST 普及推進フォーラム

●公共交通利用促進フォーラム

●第4回全国バスマップサミット

●第11回欧州モビリティ・マネジメント会議

5. その他

●ESTロゴマークを作成しました！

●記事募集中！

## 1. 寄稿①「環境的に持続可能な交通を目指して」(第5回)

### ●「地域で支える公共交通」

【環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会委員 上岡直見】  
(環境自治体会議環境政策研究所 主任研究員)

ESTの施策の中で、自動車から公共交通へのモーダルシフトが重要なテーマの一つですが、大都市圏・中小都市圏・農山村部など条件によって、方策は一様ではありません。大都市圏はすでに公共交通の分担率が高く、農山村部は在来型の公共交通が成立しにくい制約があります。この中において中小都市圏では、いくつかの利用促進策によって、モーダルシフトを促す余地があるとともに、環境面の改善効果も期待できます。

最近、中小都市圏の鉄道路線において、事業者が撤退するケースがみられますが、地域の取り組みにより、これらを再生して活用する成功事例が報告されています。この「地域」とは、①関連する地方公共団体と、②利用者・企業等の二つのセクターが考えられます。富山県の万葉線(旧加越能鉄道から継承)・福井県のえちぜん鉄道(旧京福電鉄から継承)・和歌山電鐵(南海電鉄から継承)では、地方公共団体が分担して鉄道のインフラ部分を支えるとともに、沿線の利用者・企業が「乗るしくみづくり」に協力しています。

年間の乗客数が100～500万人のレベルで運営されている地方鉄道にとっては、沿線の利用者・企業の協力によって、通勤客を一駅で10人獲得すれば、年間数千人の利用者数の増加としてカウントされます。大都市圏のJRや大手民鉄の感覚では、各駅で10人でいどの増加では微々たる数字のように思えますが、地方鉄道にとっては決して小さい数字ではありません。こうした努力の積み重ねの結果、利用者が増加して経営も改善され、環境面の効果も期待できます。

## 2. 寄稿②「地方から全国に向けた情報発信！」(第5回)

### ●「三郷市及び八潮市の全域をステージとした持続可能な交通環境づくりを目指して」

【三郷市環境経済部交通対策課副参事 大野 練夫】

三郷市及び八潮市では、平成17年度から平成19年度までを事業期間とするESTモデル事業に取り組んでいます。つくばエクスプレス開業に併せ三郷中央駅及び八潮駅の両駅を中心としたバス交通ネットワークの再編成を中心に事業を展開し、自動車利用の抑制を図るとともに、道路交通の円滑化のための渋滞対策等を促進し、CO2の排出を抑制するなど、環境的に持続可能なコンパクトな交通環境を創出することを目的としています。

平成17年度の主な事業としては、前述したバス交通ネットワークの再編成のほか、駅前広場の整備、駅周辺の道路整備、自転車駐輪場の整備、そして、三郷ICに隣接して誕生した大型商業施設「ピアラシティみさと」のバスターミナルの整備、7路線のバスの導入、宅配便の導入などを実施しました。

また、公共交通活性化総合プログラムによる「公共交通情報相互提供システム導入調査」、「地域限定バス共通ICカード導入調査」、国直轄事業としての「地域限定バス共通ICカード導入実証実験」及び「ESTモデル事業フォローアップ調査」を実施しています。

ESTモデル事業の1年目の目標は、①公共交通利用者対前年比0.5%増加、②ピア

ラシティみさとへの自動車来店台数を当初予定より7%削減、③新規バス路線利用者1便当たり12人確保として各事業を展開してきた結果、公共交通利用者対前年比は国の鉄道利用の増加目標値の0.15%はクリアできているものの、残念ながら独自の目標である0.5%増は達成することができませんでした。また、ピアラシティみさとへの自動車来店削減についても、平日は目標を達成できておりましたが、休日においては達成できておりません。さらに、新規バス利用者1便あたりの平均利用者も8.3人という状況にとどまっております。

このような結果を踏まえ、平成18年度は、前年度の目標値を継続するとともに、目標達成に向けた改善の方向性として「鉄道とバスのシームレス化」、「公共交通利用のきっかけづくり」、「買い物目的のバス利用化方策の充実」の3点を挙げ、「公共交通情報相互提供システムの本格導入」、「バスガイドブックの全戸配布」、「事業所対象のモビリティマネジメントの実施」、「ピアラシティみさとへのバス交通サービスの向上及び来店者へのワンショットTFPの実施」、「八潮PAを活用した高速バス&TXライド可能性調査」、「交通流円滑化のための経路分析調査」、「バス再編評価と新たな改善方策検討調査」などを加えて事業を実施しております。

これらの事業については、NEDOの支援制度を活用し、目標達成度、CO2削減効果、省エネルギー効果、課題抽出、新たな施策の検討を行い、ESTモデル事業の最終年度である平成19年度事業につなげ、認定地域であるトップランナーとして、波及効果のある事業を展開していきたいと考えています。

---

### 3. ニュース／トピック

#### ●「国土交通省環境行動計画モデル事業」の実施地域が選定されました。【国土交通省】

「国土交通省環境行動計画モデル事業」の実施地域 12 地域が国土交通省によって選定されました。このうち、EST 関連は荒川区、上越市、静岡市、和泉市、神戸市、松江市の 6 地域です。これにより、EST モデル事業実施地域は累計 27 地域（平成 16 年度選定 11 地域、17 年度選定 10 地域、18 年度選定 6 地域）となりました。

[http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/00/001225\\_2\\_.html](http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/00/001225_2_.html)

#### ●EST 普及推進フォーラムを開催します。【EST 普及推進委員会】

EST 普及推進委員会は、ESTの普及促進を図るため、講演、パネルディスカッション、テーマ別ラウンドテーブル等によりESTの取組みについて検討する「EST普及推進フォーラム」を開催します。日時は 2007 年 2 月 14 日 13:00－19:00、会場は東京の六本木アカデミーヒルズ49です。プログラムおよび申込方法を EST ポータルサイトに掲載しています。

<http://www.estfukyu.jp/>

#### ●乗用車等の新しい燃費基準に関する中間取りまとめを公表【国土交通省、経済産業省】

国土交通省及び経済産業省が設置した「交通政策審議会陸上交通分科会自動車交

通部会自動車燃費基準小委員会」と「総合資源エネルギー調査会省エネルギー基準部会自動車判断基準小委員会」の合同会議において、省エネ法に基づく乗用車等の新しい燃費基準の中間とりまとめが公表されました。それによると、目標年度である2015年度の乗用車の燃費は2004年度実績値と比べて23.5%の改善となります。

この中間とりまとめについて、1月23日までパブリックコメントが募集されています。

[http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/09/091215\\_.html](http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/09/091215_.html)

●2007年3月からSuicaとPASMOが相互利用サービス開始【JR東日本、PASMO協議会他】

IC乗車券のSuicaとPASMOの相互利用サービスが2007年3月18日から始まります。これにより、首都圏の主な交通機関が一枚のカードで利用できるようになります。同日、相互利用サービスを開始するのは、Suicaグループの鉄道・バス5事業者と、PASMOグループの鉄道23事業者、バス31事業者です。

<http://www.tobu.co.jp/news/2006/12/061221-2.pdf>

●第2回アジアEST地域フォーラムをインドネシアで開催【環境省】

環境省は、国際連合地域開発センター(UNCRD)、インドネシア環境省とともに、アジアEST地域フォーラムの第2回会合を、12月11～12日にインドネシア・ジョグジャカルタで開催しました。アジア地域14カ国の政府機関の代表、学識経験者、国際機関職員等約100名が参加し、各国のEST取組み状況の発表、各国のESTの実現に向けた取組みの進捗状況を把握する指標の導入についての議論、都市レベルでもESTの実現に向けた取組みを強化するためにESTに関するアジアの市長会合を開催する構想についての議論などがおこなわれました。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7824>

●自転車の安全利用の促進に関する提言をとりまとめ【警察庁】

自転車は身近な交通手段であり、環境負荷の少ない乗り物としても見直されていますが、自転車関連の事故は年々増加し、また、一部自転車利用者のルール・マナー違反が厳しく指摘されています。今般、警察庁が公表した自転車対策検討懇談会による提言では、利用目的・利用主体に応じた自転車の通行空間の確保、自転車と歩行者・自動車の適切な共存を図るための自転車の走行環境と実効性のあるルールの整備などを提言しています。

<http://www.npa.go.jp/>

●京都府の久世工業団地周辺地域で「共同送迎バス」を運行【久世工業団地周辺地域共同運行システム構築検討会議】

京都府、京都市では、環境的に持続可能な交通社会の実現を目指し、久世工業団地周辺の企業と連携し、通勤手段をクルマから公共交通へと転換することを促すために、工業団地と鉄道駅を結ぶ共同送迎バスの運行実験をおこなっています(期間:11月27日～12月28日)。

<http://www.pref.kyoto.jp/news/press/2006/11/1164345890105.html>

●京都府の久御山工業団地周辺地域で通勤者向けモビリティ・マネジメントを実施【京都府他】

京都府及び久御山町では、「久御山工業団地周辺地域・通勤プロジェクト」として、久御山工業団地と近鉄大久保駅を直通で結ぶ「通勤バス(無料)」を運行し、合わせて、アンケートと「通勤マップ」を配布することにより、工業団地周辺地域の従業員の皆さんが一人ひとりの通勤行動や地域の公共交通について考える機会を提供し、渋滞緩和や地球環境負荷の低減を促す取り組みを実施しました(期間:12月21日、22日)。

<http://www.pref.kyoto.jp/news/press/2006/12/1166582823719.html>

---

#### 4. イベント情報

●アラン・メネトー連続講演会(富山)「公共交通活性化によるコンパクトなまちづくり」

日時:2007年1月11日(木)14:30~17:30

場所:富山国際会議場

主催:富山市交通政策課

<http://www.estfukyu.jp/pdf/meneteau.pdf>

●アラン・メネトー連続講演会(福井)「まちづくりに路面電車をどう活かすか！」

日時:2007年1月13日(土)15:00~17:30

場所:福井県国際交流会館

主催:(特)ふくい路面電車とまちづくりの会、(財)地域環境研究所

<http://www.estfukyu.jp/pdf/meneteau.pdf>

●EST 普及推進フォーラム

日時:2007年2月14日(水)13:00-19:00

場所:六本木アカデミーヒルズ49

主催:EST 普及推進委員会

<http://www.estfukyu.jp/>

●公共交通利用促進フォーラム

日時:2007年3月3日~4日

場所:仙台市市民活動サポートセンターほか

実施主体:NPO 法人 まちづくり政策フォーラム

概要:公共交通についてのリレーセッション、セミナー、フォーラム(環境省EST主体間連携事業)

●第4回全国バスマップサミット

日時:2007年3月3日~4日

場所:仙台市市民活動サポートセンターほか

実施主体:全国バスマップサミット実行委員会

概要:サミット会議、交流会、仙台バス乗り体験

●第11回欧州モビリティ・マネジメント会議

期間:2007年5月9日~11日

場所:スウェーデン ルンド市

<http://www.ecomm2007.se/>

---

## 5. その他

●ESTロゴマークを作成しました！

EST普及推進委員会ではESTロゴマークを作成しました。近々、ESTポータルサイトに登場いたします。

●記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。EST、または「交通と環境」に関連する取り組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。

→ E-mail:EST@ecommo.or.jp(担当:市丸)

---

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

[http://www.estfukyu.jp/mailmagazine\\_cancel\\_form.html](http://www.estfukyu.jp/mailmagazine_cancel_form.html)

ESTポータルサイト:<http://www.estfukyu.jp/>